

ランとも 都内で18、19日「RUN伴」

認知症のある人や家族らがたすきをつないで日本を縦断する「RUN TOMO—RROW 2016 (愛称・RUN伴=ランとも)」が18、19の両日、都内を通過する。初めて参加する文京区内のチームは「ぜひ沿道で応援を」と呼び掛けている。(竹上順子)



「RUN伴」への出場を前に張り切る女性(前列中央)と介護施設「ユアハウス弥生」のスタッフら=文京区弥生で

認知症の人と たすきつなぐ

「誰が介護されている人か分からなかったね」。そんな声が沿道から聞こえる。本部スタッフの三浦亜希子さん。認知症の人を介護する人も、みんなで楽しめるという。介護者同士のつながりが生まれ、地域の人たちは認知症の人と触れ合う機会になっている。

文京区の介護施設「ユアハウス弥生」を利用して、認知症の女性(へこ)は、幼稚園児のひ孫と施設のスタッフ、区地域包括支援センターの職員ら十二人で出る。

女性は「走れるか心配だけど楽しみだね」。施設のスタッフで介護福祉士の金山峰之さん(へこ)は「本人や家族、専門職が街に出ることと認知症のイメージを変えたい。ぜひ見にきて」と力を込めた。このチームは18日、埼玉県久喜市、さいたま市、品川区のルートに参加する。

このイベントは、認知症

になっても安心して暮らせる地域づくりを目指し、

NPO法人「認知症フレンドシップクラブ(武蔵野

市)が主催。三人以上で一

チームになり、走ったり歩

いたりする。初開催の二〇

一一年は、北海道内の三百

文京のチーム参加

翌年からは各地に実行委

員が生まれ、ルートも参加

者数も年々増加。六回目の

今年、初めて北海道から

沖縄県までルートがつか

る。七月から十一月にかけ

て約一万一千人が参加、う

ち一割が認知症の人とみら

れる。車いすの人やゆつ

くり歩く人、見事なフォーム

で走る人などさまざま。

2016」を検索。

ある。ネットで「RUN伴

2016」を検索。